



那須与一伝承館通信〈第24回〉

○豊臣秀吉朱印状

今回は那須与一伝承館が収蔵する資料の中から豊臣秀吉朱印状を紹介いたします。

本品は、天正十五年（一五八七）に書かれたものと推定される、豊臣秀吉（一五三七〜九八）が那須資晴に宛てた書状です。

内容は以下のとおりです。資晴の「音信」（進物）として「太刀一腰」、「馬代銀子百両」が届きました。「遠路」にもかかわらず資晴の「懇請」（真、心のこもった心遣い）に「悦」んでおります。また「東八州・奥両国」の「置目等」（仕置き、処分）を「近日」申し付けるので、その心づもりでいるように。なお委細は増田長盛が申し上げます、と記されています。

この当時、秀吉はまだ小田原北条氏などの関東・奥州の武士たちを完全に従えてはおりませんでした。一方、那須氏も秀吉に従うか、それとも北条氏に従うか、その判断を決めかねていました。したがって、この書状から「天下人」として権力を固めつつあった秀吉に対して、那須氏がいち早く交渉を図ろうとしていたことが窺えます。

現在、本品を展示しております。ぜひこの機会にご覧ください。

○豊臣秀吉朱印状

爲音信太刀一腰・馬代銀子百両到來候、遠路懇情悦入候、東八州・奥兩國置目等近日可申付之條、可成其意候、猶増田右衛門尉可申候也、
十月十二日 ①
那須太郎とのへ



豊臣秀吉朱印状
(那須家所蔵・当館寄託)

■問い合わせ

那須与一伝承館
TEL (20) 0220

彫刻

市内で作られた作品とその作者

周遊 ④9

このコーナーは、「那須野が国際彫刻シンポジウム」で公開制作、設置された作品とその作者を連載で紹介いたします。

この作品は黒羽小学校の小川沿いに設置してあります。

おもちゃのようなかわいらしい馬にこれはまたおもちゃのような人が座っています。人の表情は穏やかで、ややほほえみ、馬は遠くを見つめているように見えます。



作者は馬に思い入れがあるようで、「馬の、緑の芝に何かを見つめる神秘的で美しい立ち姿が好き」だそうです。この作品

Take a Blow (休む)

ホ ハーラン
Ho Haeran 韓国 2012年

は「馬」と「人」との長い歴史の中で培っている「繊細な心の交流」を表現したもののようなのです。作品は全体的にやわらかい線で構成されており、また作品の「馬」と「人」との間には、お互いの表情から信頼感のようなものが見てとれます。今後も両者はずっと寄り添い、良い関係を築きながら黒羽の町を歩き交う人々を見守る事でしょう。



ホ ハーラン 氏

作者は韓国人のホ・ハーラン氏。梨花女子大学大学院修了。近年はソウルで行われたインテ

メットスペース-ネオワ彫刻家協会や韓国ギャラリーアートフェア2012などに招待を受けて参加しています。また、日本との交流も積極的に行っています。

設置場所案内図(★印)



■問い合わせ

文化振興課文化振興係 TEL (23) 8718